

第2章 トピックス ～令和5(2023)年度の話題～

1 栃木県誕生150年記念 樹木パートナー事業の実施

栃木県誕生150年を契機とし、二酸化炭素の吸収源として重要な役割を担う樹木に対する理解を深め、オールとちぎによるカーボンニュートラルの実現につなげていくため、県で管理する樹木に寄附をいただく「樹木パートナー」を募集しました。

県があらかじめ指定した10本の樹木から選択して寄附する選択型寄附と、県が保有する樹木から任意の樹木を提案して寄附する提案型寄附という枠を設け、令和5(2023)年5月11日から9月30日まで募集したところ、41者(団体:4、事業者:25、個人:12)から19,570千円の寄附をいただきました。

事業の趣旨に賛同し寄附いただいた方々に対しては、樹木付近に寄附いただいた方の氏名等を記載した木製銘板を設置し、顕彰させていただくとともに、一定額以上の寄附をいただいた方には、感謝状を贈呈しました。

当該事業のPRや多くの方からの寄附を通じて、カーボンニュートラル実現に向けた意識醸成を図ることができました。



2 栃木県誕生150年記念 ベルギー王国大使館別荘の特別公開

栃木県誕生150年記念事業として、6月30日から7月2日の3日間、中禅寺湖畔で築95周年を迎えるベルギー王国大使館別荘が大使館の協力のもと特別公開されました。

多くの応募の中、抽選で選ばれた678人の参加者が、大使及び大使館スタッフの案内で別荘内を見学し、ベルギー王国の文化に触れるとともに、国際避暑地として栄えた奥日光の歴史を知る大変貴重な機会となりました。

また、「国際避暑地日光 皇室・大使の別荘めぐりデジタルスタンプラリー」にベルギー王国大使館別荘が加わったことや関連イベントのマルシェ等の開催により、観光客が地域を周遊するなど、多くの観光客で賑わいました。

今後も周辺施設と連携した周遊観光を促進し、地域観光の振興を図っていくとともに、日光国立公園の更なる魅力発信に努めていきます。



3 公共交通へのEVバス導入支援

令和6（2024）年2月に宇都宮市内の路線バスに5台のEVバスが導入されました。

この取組は、国のグリーンイノベーション基金を活用した路線バスのEV化と運行管理や充電の最適化を図るエネルギーマネジメントシステム構築の大規模実証事業であり、令和11（2029）年度までに158台が導入される計画です。

県は、令和4（2022）年3月に策定した「2050年とちぎカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ」に、令和12（2030）年度までに商用車等の一部を電動車に転換させる目標を掲げており、引き続き、国や宇都宮市とともに公共交通バスのEV化を支援していきます。

EVバスお披露目式
令和6（2024）年1月31日（宇都宮駅東口交流広場）



4 全国浄化槽トップセミナー栃木大会の開催

環境省が主催する「令和5年度浄化槽トップセミナー栃木」が、令和5（2023）年10月27日に本県で初めて開催されました。

本セミナーは、主として市町村の政策決定に携わる方や浄化槽行政担当者等を対象に、地域の実情にあった浄化槽整備についての理解を深めることを目的としたものです。

当日は多数の市町長や市町議会議長等の参加のもと、経済的・効率的な生活排水処理施設である浄化槽の特徴やその整備手法について、環境省等の講演を通して関係者の理解を深めることができました。

本セミナーを契機として、今後も市町及び関係団体等と連携しながら、浄化槽による生活排水対策を一層推進していきます。



5 県営処分場エコグリーンとちぎの開業

エコグリーンとちぎは、平成2（1990）年8月に発覚した那珂川町北沢地区の不法投棄物を撤去するとともに、県内から排出される産業廃棄物を適正に処分し、本県の循環型社会の形成や地域産業の振興に資するため、那珂川町内に整備した県内初の管理型産業廃棄物最終処分場で令和5（2023）年9月に開業しました。

当施設は、埋立地を屋根や壁で覆うことにより、廃棄物・粉じんの飛散や騒音・悪臭の発生を抑制した国内最大級のクローズド型最終処分場であり、浸出水を外部に放流せず循環利用するなど、周辺環境への影響を極力低減する構造を有しています。

また、管理型産業廃棄物最終処分場としては全国初となるPFI制度を採用しており、民間事業者の技術力や経営ノウハウ、資金力を活用し、施設等の設計から建設、運営、管理までを一体的に行うことで、効率的かつ効果的な運営・維持管理による安全性の確保と経営の健全化の両立を図る運営体制としています。

更に、施設運営にかかる積極的な情報発信、地域の皆様との定期的な意見交換等のほか、多くの皆様に直接施設を見ていただくための見学コースを設置するなど、処分場運営の透明性の確保に努めながら、安全で安心な、そして多くの皆様に信頼いただける処分場となるよう取り組んでいきます。



6 栃木県林業大学校の竣工

県は、利用期を迎えた人工林の循環利用を促進し、林業・木材産業の成長産業化を図るため、幅広い知識と技能を持った林業人材を確保・育成していく必要があることから、その中核を担う栃木県林業大学校を令和6（2024）年4月に開校しました。

林業大学校では、高校生から経営者まで、それぞれの経験に合わせた8つの課程を設置しました。特に、これから林業への就業を希望する方を対象に1年間授業を行う「就業前長期課程」は、林業に必要な知識や技術、さらには14の資格が取得可能なカリキュラムとなっています。

また、学生が学ぶ研修・研究棟には、全て県産木材を使用し、交流スペースには、日光杉並木をイメージした4本の柱と美しい木組みを組み合わせ、木造のダイナミックさや繊細さを表現しています。また、部屋ごとに様々な構造を取り入れるなど、本県における木造建築のシンボルとなるような施設として整備しました。

本校で学んだ学生が、これからの本県林業をけん引していく新たな林業の担い手として、一日も早く林業の世界で輝いていくことを期待しています。

